

原子力発電の活用によるCO₂排出量削減



玄海原子力発電所

地球温暖化の原因とされるCO₂の排出量は、太陽光や風力発電設備などの再生可能エネルギーを活用することでも抑制が可能ですが、その排出量抑制に大きく寄与する発電方式は、天候に左右されず、発電出力も大きく、発電時にCO₂を発生しない原子力発電です。

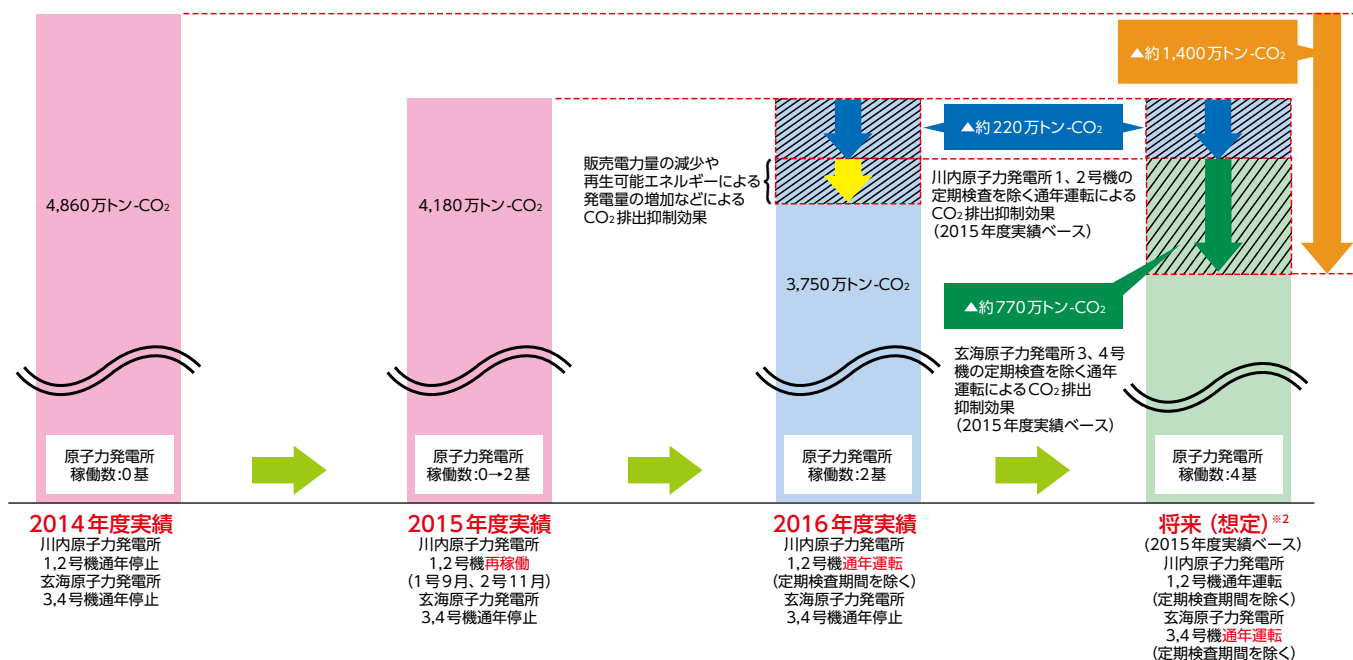
当社では、国の新規規制基準に合格し、2015年度に通常運転に復帰した川内原子力発電所1、2号機が、2016年度も安定して運転(定期検査期間を除く)したことから、CO₂排出量の削減に大きく貢献しました。

世界的な流れでもある低炭素社会の実現に向け、2017年度は、玄海原子力発電所の早期再稼働に、全社一丸となって取り組んでいきます。

原子力発電によるCO₂排出抑制効果

2016年度は川内原子力発電所1、2号機の年間を通じた安定運転(定期検査期間を除く)により、火力発電の稼働率が低下したことから、2015年度に比べ約220万トンのCO₂抑制に繋がりました。また、将来、川内原子力発電所1、2号機に加え、玄海原子力発電所3、4号機も通常運転に復帰した場合は、CO₂排出量の抑制効果は約770万トン^{*1}になると想定しています。これを原子力発電所が全台停止していた2014年度と単純に比較すると、約1,400万トン^{*1}のCO₂排出量の削減となり、その削減量の大半が原子力発電によるものです。

このように、原子力発電は電力の安定供給や発電原価の低減だけでなく、CO₂排出抑制面でも非常に優れた電源です。



^{*1}: 2016年度の販売電力量あたりのCO₂排出量(調整後)を使用して試算。
^{*2}: 玄海原子力発電所3、4号機の、2010年度の発生電力量を用いて試算。